



申17号 2026年度賃金引き上げ等に関する申し入れ **26春闘**

申18号 2026年度夏季手当等に関する申し入れ **団体交渉を行う! ①**

趣旨説明

- 安全第一で不当・不法行為のない安心して働ける健全な会社づくりに向け、日々奮闘している。異常時や雪害対応なども全系統の組合員・社員が全力で対応している
- 1月からの大規模輸送障害もだが、「グループ安全計画2028」発表以降も、重大事故が発生していることに、JR 東日本グループの安全が危機的状況であると警鐘を鳴らし続けてきた。そして「責任追及から原因究明へ」の安全哲学の再確立・安全文化の再構築と信頼回復に向け奮闘を続けている
- 経営幹部は現場第一線の声と現実から目を背けることなく奮闘と努力に応えることが求められている
- コロナ禍における経営判断として修繕費約800億円が削減されていることが明らかになったが、**コロナ期の影響をすべて取り戻すべく交換・修繕を実施することを理由に組合員・社員の賃金を抑制するならば明確に反対する!**
- 今年は東日本大震災から15年を迎えるが、この間、組合員は地域や鉄道の復旧・復興に向けて最大限の力を注ぎ、地域住民や自治体とも連携をして取り組んできた。今も出向先で地域の交通網を守るために奮闘している組合員がいる。今一度東日本大震災の教訓と鉄道が果たした役割を労使で捉え返し、今後活かしていくことが課題だ
- 2月2日に発表した2026年3月期第3四半期連結決算は増収増益。単体の業績も好調に推移している。この結果は、**JR 東日本グループで働く組合員・社員が、安全第一で日々奮闘・努力してきた賜物であり、会社の支払い能力は十分にある。**会社発足以来、社員数が大幅に減少する中、**社員一人当たりの売り上げは過去最高を更新している現状を踏まえ、組合員・社員の奮闘と努力に報いる経営判断をするべきである!**しかし、決算発表日の2月2日付、社長名で「新賃金・夏季手当について」が示され、現場第一としない、**団体交渉軽視・労働組合軽視とも受け取れる内容であり、現段階職場の努力に報いる姿勢とは感じられず認められない。通知についても職場から怒りや不満・不信の声が出されていることを真摯に受け止め、職場の奮闘と努力に報いる姿勢を示すべきだ!**
- JR 東日本の営業収益は大幅に回復しているが、組合員の生活実感は昨年ベースアップが実施されたものの一向に生活が向上されない。物価上昇に賃金の伸びが追いつかず、実質賃金は低下している
- 更なる多能化や労働強化が進み、労働環境も変化するなか「過去最高の働き度」の実感は強くなっている。医療職場も含めて肉体的にも精神的にも負担が増加し「ゆとり」もなくなっている
- 世代を問わず離職は止まらない。人材の定着を前提にした、人材確保を早急に取り組むべきだ
- 全地本と青年連絡協議会で春闘集会が開催されるなど、今労使交渉への注目度・期待度が高まっている。一部大手企業ではすでに要求満額での回答を示す動きも出ている。JR 東日本グループで働く組合員・社員的大幅賃上げもJR 東日本会社が積極的にけん引すべきだ
- 危機感と緊張感をもって「職場の声と現実」に真摯に向き合い、**現場第一の経営姿勢で職場の奮闘と努力に報いる要求満額での回答を強く求める!**

ベースアップに格差はいらない! 春闘破壊を許さない! 組合員・社員の奮闘と努力を一番の考慮要素としてモチベーションの向上に資する満額回答を求めます!